

# 1. 交通系ICカード導入によるメリット

## 地域外利用者の利便性向上

- ・訪日外国人をはじめとする旅行者の移動の円滑化（訪日インバウンド2000万人時代への対応）

相互利用  
片利用

## 地域の利用者の利便性向上

- ・切符購入が不要となり公共交通利用のバリア軽減
- ・乗継・回数・高齢者割引や1円単位の運賃等、多様なサービスを1枚で利用可

## 交通事業者の経営革新

- ・正確な旅客データの入手及び分析に基づく、効果的・効率的な輸送の実現
- ・定時性運行の実現や乗換利便の向上等の高水準なサービスの提供

## 地域活性化

- ・高齢者福祉サービス等の行政サービスとの連携
- ・地元商店街や観光施設等の地域経済活動との連携
- ・外国人を含む来訪者の積極的な取り込みによる「対流」の促進

> シームレス化

## 2. 交通系ICカード導入による利用者メリット

対象者	メリット	具体的な内容
利用者 メリット	域内旅客の利便性向上	<p>○<u>高齢者・障害者をはじめとした公共交通利用のバリア軽減</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・切符の購入が不要で、ICカードをタッチするだけで乗降が可能</li> <li>・こどもパス、敬老パス、障害者パス等の福祉サービスの利用</li> <li>・船舶、タクシー、デマンド交通等、多様な交通手段で利用可能</li> </ul> <p>○<u>多様なサービスを1枚で利用可能</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・乗継・回数・高齢者割引や1円単位の運賃等、様々なサービスの享受</li> <li>・クレジット&amp;キャッシュカード、学生・社員証、オートチャージ機能等をはじめ、交通以外のサービスも1枚で利用可能</li> </ul> <p>○<u>日常的な利用の利便性向上</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・乗降時間の短縮による定時性の確保</li> <li>・定期券紛失時の再発行が可能</li> </ul>
	域外旅客・外国人旅行客の利用障壁解消	<p>○<u>外国人を含む域外からの不慣れな旅客の利便性向上</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運賃表の確認や切符の購入が不要</li> <li>・多様な交通手段で利用可能で、相互乗り入れの運賃精算にも対応</li> <li>・1枚のカードを全国で利用可能で、ビジネス客等の利便性も向上</li> </ul>

### 3. 交通系ICカード導入による事業者メリット

対象者	メリット	具体的な内容
事業者 メリット	多様なサービスを1枚で提供	<p>○多様な券種のIC化による高水準なサービスの提供</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・乗継・回数・高齢者割引や1円単位の運賃等、柔軟な運賃設定が可能</li> <li>・こどもパス、敬老パス、障害者パス等の福祉サービスへの展開</li> <li>・クレジット&amp;キャッシュカード、学生・社員証、オートチャージ機能等追加</li> <li>・電子マネー機能の活用によるビジネスの拡大</li> </ul>
	運用負荷の軽減	<p>○運賃收受の自動化に伴う運用負荷の軽減</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・係員による運賃・定期券等の確認作業解消</li> <li>・正確かつ確実な運賃收受の実現</li> <li>・現金の取扱減少による乗降時間短縮や現金管理に関する人的負荷の軽減</li> <li>・改札の高速処理によるホームやコンコースにおける滞留時間の解消</li> </ul> <p>○ICカード導入に合わせた制度の見直しによる運用負荷の軽減</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・IC化に伴う複雑な定期券ルールの整理</li> <li>・前払いによる財務メリット</li> </ul>
	ODデータの活用	<p>○効果的・効率的な輸送の実現に向けた経営革新ツールとしての活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・定期券、福祉サービスのIC化による全券種のOD取得</li> <li>・GISデータとの関連付けによる多角的な分析・検討の実施</li> <li>・経路・便数・乗換箇所・接続時間等、データに基づく運行ダイヤの改善</li> <li>・ベンチ設置数等の施設整備への活用や新たなビジネスの創出</li> </ul>
	コストの削減	<p>○リユース可能で非接触式のICカードの特性によるコスト削減・環境負荷の軽減</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・磁気式カードの発行廃止によるコストの削減と環境負荷の軽減</li> <li>・磁気式と比較し可動部が少ないことによる保守コストの削減</li> </ul>

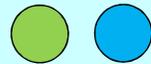
## 4. 交通系ICカード導入による地域社会メリット

対象者	メリット	具体的な内容
地域社会 メリット	地域の活性化	<p>○<u>地域関係者と連携した取組による地域活性化と公共交通活性化</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・商店街、レンタサイクル、観光地、公共施設等との連携</li> <li>・電子マネーの使用に伴うポイント加算等による地域経済の活性化</li> <li>・利用状況を踏まえた地域における新たなビジネスの創出</li> <li>・シームレスな公共交通の実現を通じた外国人を含む来訪者の拡大と海外・都市部との「対流」の促進</li> <li>・敬老パス等の福祉サービスへの展開</li> <li>・ICカード利用データを用いた自治体の政策効果測定への活用</li> </ul>

## 5. 主要都市の2次交通と主要鉄道間のシームレス化を推進するための方策

2次交通に交通系ICカードが未導入の主要都市

**23都市※2**



2次交通に地域独自の交通系ICカードが導入済みの主要都市※1

**18都市※2**



**【方策 A】10カードへの参加**

**【方策 B】  
「地域独自カード」+「10カードの片利用」**

※1: 県庁所在地及び人口20万人以上の都市

※2: 第1回「交通系ICカードの普及・利便性拡大に向けた検討会」において整理した結果

**方策A・Bの両面から、主要都市の2次交通と主要鉄道間のシームレス化を推進していくことが有効**

＜各方策について＞

- ・方策Aは、既に多くの地域において導入の実績があり、枠組みとして確立しているが、コストや導入の際の窓口の明確化等の課題が残っている。
- ・一方、方策Bは、これまでの導入実績が少なく、枠組みが十分に整理されていないため、その普及方策について具体的な検討を進める必要がある。

➡ 今後、方策Bについて普及方策の具体化作業を進めるとともに、各地域が両方策の特性を勘案しつつ、導入を図ることのできるような枠組み作りを推進する必要がある。

(2015年4月1日現在)

# 【参考】いわゆる「交通系ICカード空白地域」の状況

## ■主要都市※<sup>1</sup>における状況

主要鉄道 ※ <sup>2</sup>	2次交通	記号	都市数
未導入	未導入	●	10
10カード	未導入	●	13
未導入	地域独自カード	●	7
未導入	地域独自カード／10カード	●	1
10カード	地域独自カード	●	10

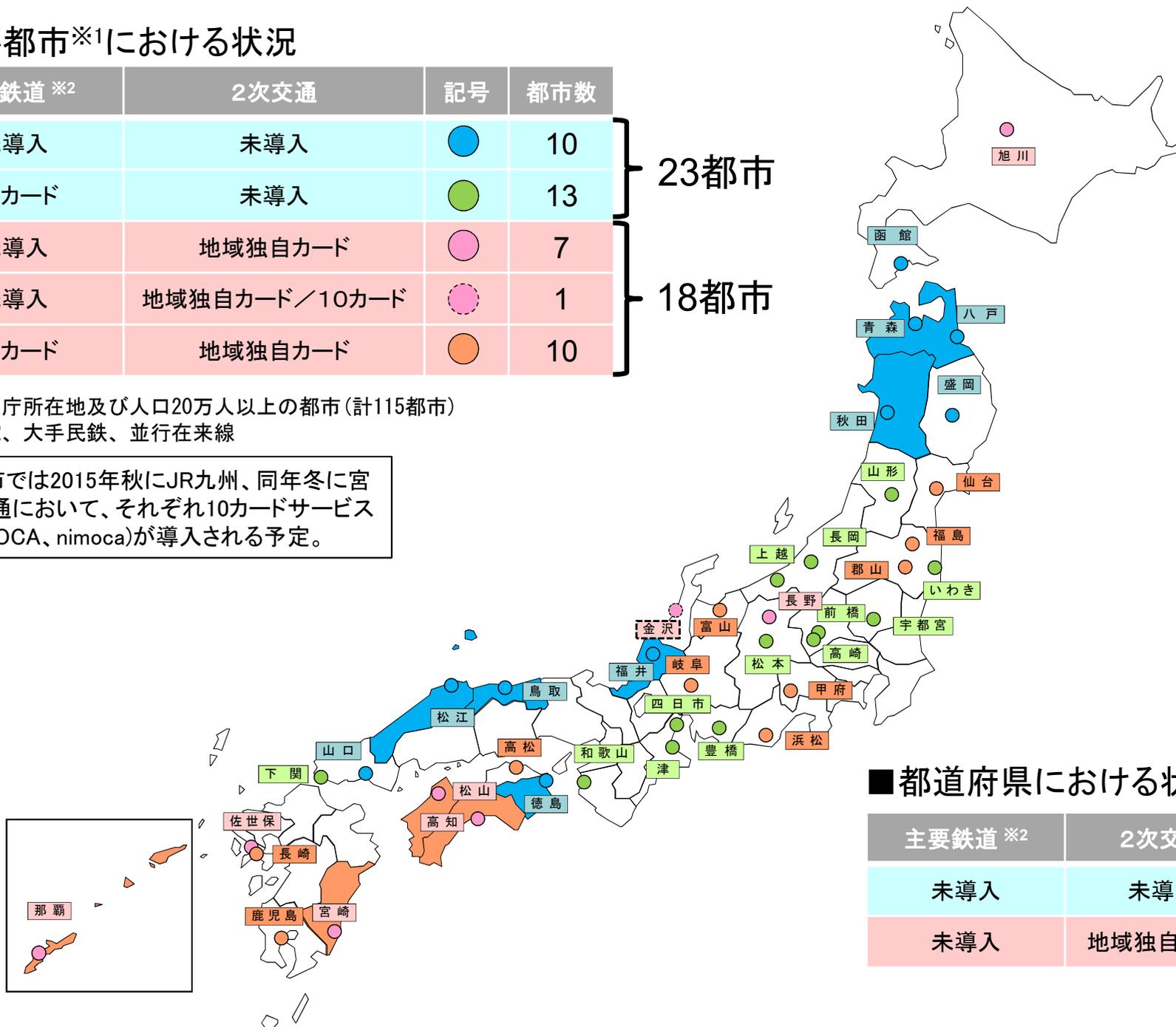
23都市

18都市

(※1)：県庁所在地及び人口20万人以上の都市(計115都市)

(※2)：JR、大手民鉄、並行在来線

※宮崎市では2015年秋にJR九州、同年冬に宮崎交通において、それぞれ10カードサービス(SUGOCA、nimoca)が導入される予定。



## ■都道府県における状況

主要鉄道 ※ <sup>2</sup>	2次交通	色	県数
未導入	未導入	■	6
未導入	地域独自カード	■	4